

子宮体癌におけるエストロゲン受容体伝達機序解明 と新規治療法での開発

① 共同研究・産学連携への意気込み



教授
森 泰輔

ERR α は子宮体癌における新たな治療ターゲットとして有望です。

② 想定される連携先・移転先

共同研究による創薬から臨床試験まで連携できればと思います。

キーワード

子宮体癌、内分泌療法、エストロゲン関連受容体、リガンド化合物、創薬

研究内容

子宮体癌が著しく増えています。子宮体癌に対してこれまで多くの分子標的薬が試行されてきましたが、いずれも満足な結果は得られておりません。網羅的遺伝子解析から子宮体癌は単一の強いがん遺伝子の変異では癌化しにくいことが示されており、腫瘍の生物学的特性に基づいた治療戦略が求められています。

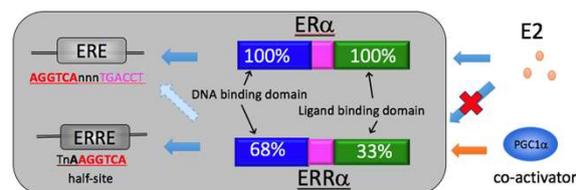
子宮体癌の生物学的特性はエストロゲン依存性であることです。われわれはこれまで一貫して「エストロゲン依存性増殖機構」に着目し、研究を展開してきた中で、**ERR α が子宮体癌における細胞増殖、浸潤・転移、血管新生、アポトーシス誘導を制御し、これを標的とする化合物が抗腫瘍効果をもたらすことを実証しました** (#1-4、他)。

#1 Matsushima H, Mori T, et al. *Oncotarget* 2016; 23: 34131-34148

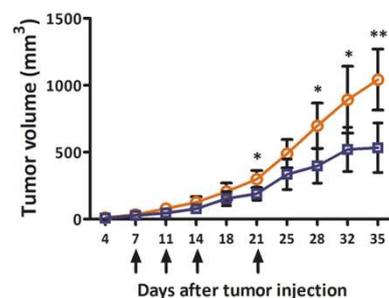
#2 Yoriki K, Mori TJ et al. *Sci Rep* 2019; 9: 6697

#3 Kokabu T, Mori T, et al. *Cell Oncol* 2019; 42: 223-235

#4 第72回日本産科婦人科学会シンポジウム腫瘍I選出、2020年日本産科婦人科学会学術奨励賞



ERとERRのクロストーク



ERR α knockdownによる抗腫瘍効果
(マウスモデル)